

エコひょうご

夏号

2016
Summer
No.80



特集 「新兵庫県環境学習環境教育基本方針」について

地域の環境活動

兵庫県立農業高等学校

企業訪問

株式会社日本海水

市町の取り組み

上郡町

理事長就任のご挨拶

公益財団法人ひょうご環境創造協会 理事長 岩根 正



このたび、理事長に就任いたしました岩根でございます。

平素より当協会事業に多大なご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、阪神・淡路大震災を経験した者として、熊本地震の被災者の皆様に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興を成し遂げられ心の平穏を取り戻されますことを強く祈念いたしております。

さて、当協会は、環境の保全と創造に貢献するため、県民、NGO・NPO、事業者、行政の皆様とともに、地球規模から地域レベルまで幅広い環境問題に一元的・総合的に取り組み、次世代に継承する「環境適合型社会」の実現を目指しています。

幸い、ひょうご兵庫県は、世界でも極めて先導的で困難な環境保全・創造への取り組みを、いち早く続けてきた地域です。その代表例は、瀬戸内海の環境回復であり、世界の閉鎖性海域の環境保全への共通認識と取り組みを生み出しました。また、世界に前例のない「ウノトリ」の野生復帰への

取り組みは、絶滅を乗り越え今や70羽超が空を翔けるまでになり、自然との共生実現への一つの道標となりました。これらの環境保全・創造の取り組みは、提唱した兵庫県のみならず、県民、事業者、関係団体など多くの人々の共感を得て、その長く地道な協働により大きな成果をあげています。こうした先人の足跡も辿りながら、当協会としても、環境適合型社会実現の一端を担うべく、さらなる貢献を積み上げられるよう日々努めてまいります。

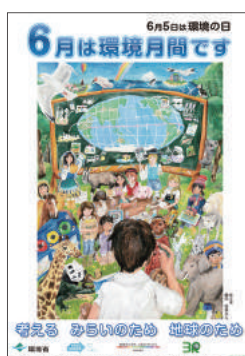
そのため、中期経営計画の点検等による健全な運営に留意しながら、設立趣旨に鑑み、また専門機関として、環境創造事業、循環型社会推進事業、環境調査・測定分析事業、環境研究事業、国際協力事業、広報普及事業などに誠心誠意取り組んでまいります。

今後とも公益法人としての使命・役割をしっかりと自覚し、さらなる環境創造と環境保全のための取り組みを積極的に進めてまいりますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

6月は「環境月間」です

昭和47年6月5日にスウェーデンのストックホルムで開催された「国連人間環境会議」を記念して、国連では6月5日を「世界環境デー」と定めています。

日本でも環境基本法(平成5年)において6月5日を「環境の日」と定め、この日を含む6月を「環境月間」として、全国各地で環境保全の重要性を認識し行動の契機とするためのさまざまな行事が行われます。



環境省提供

特集

「新兵庫県環境学習環境教育基本方針」について

兵庫県農政環境部環境創造局環境政策課

1 新兵庫県環境学習環境教育基本方針による環境学習・教育の推進

兵庫県では、環境学習・教育の基本的方向を具体化し、兵庫ならではの特色ある施策を総合的かつ計画的に推進する運営指針として、平成18年3月に「兵庫県環境学習環境教育基本方針」（方針の期間…平成18年度～27年度）を策定し、本県の豊かな自然・風土を生かし、ライフステージに応じた環境学習・教育を進めてきました。

この間、地球温暖化や生物多様性の危機など地球的規模での深刻な環境問題が顕在化しています。また、野生動物による農林業被害、

PM2.5等の大陸からの越境汚染対策など、新たな環境問題も生じています。このような状況を踏まえ、平成28年度以降の環境学習・教育施策の指針とする「新兵庫県環境学習環境教育基本方針」（方針の期間…平成28年度～37年度）を平成28年3月に策定しました。

本方針は、「第4次兵庫県環境基本計画」（平成26年3月策定）に示された環境学習・教育の具体化を図るための個別計画であるとともに、「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」（平成23年6月改正）に基づく地方公共団体の行動計画としても位置づけています。これまで取り組んできた、本県の環境学習・教育の基本的考え方を

継承しつつ、第4次兵庫県環境基本計画の基本理念「地域力で創る環境先導社会」の構築、人と自然が共生する「豊かで美しいひょうご」を実現することをめざしています。

2 兵庫県の環境学習・教育の実施状況と課題

環境やいのちを大切に思う“こころ”を育み、学習から実践へとつなげていくため、兵庫の豊かな自然・風土を生かしながら、乳幼児期からシニア世代までのそれぞれのライフステージに応じて、自ら「体験」、「発見」し、自ら「学ぶ」環境学習・教育を推進するとともに、地域の自然の中での豊かな体験を通してふるさと意識を育



▲環境体験事業における里山での活動（三木市）



▲自然学校における水辺での活動（竹野海岸）

んでいます。

（1）実施状況

ライフステージに応じた環境学習・教育の推進

乳幼児期…

ひょうごエコっこ育成事業、
はばタンの環境学習等

学齢期…

環境体験事業（小3）、
自然学校推進事業（小5）等

成人期…

ふるさと環境通信員、
ふるさと環境フォーラム等

イ 地域の特性を生かした取組の推進

地域ごとに自然的、歴史的な特徴を生かした取組が県民・行政が

一体となつて行われています。(北
摂里山博物館構想、いなみ野た
め池ミュージアム、コウノトリ野
生復帰プロジェクト等)

ウ 地域団体・NPO、企業等の取組

県内で環境保全・創造に取り組む地域団体・NPO等は、平成17年度末の645団体から、平成26年度末で1,053団体に増加しています。リサイクルの推進、身近な生活環境の美化、地域の自然環境の保全など幅広い活動が展開されています。

(2) 課題

ア 環境保全・創造への意識を高める
ふるさと意識を育む環境学習・教育の実施

イ 生涯にわたり学び続ける環境学習・教育の推進

ウ 環境学習・教育の人材育成・活用
及び協働取組の推進

3 環境学習・教育のあり方

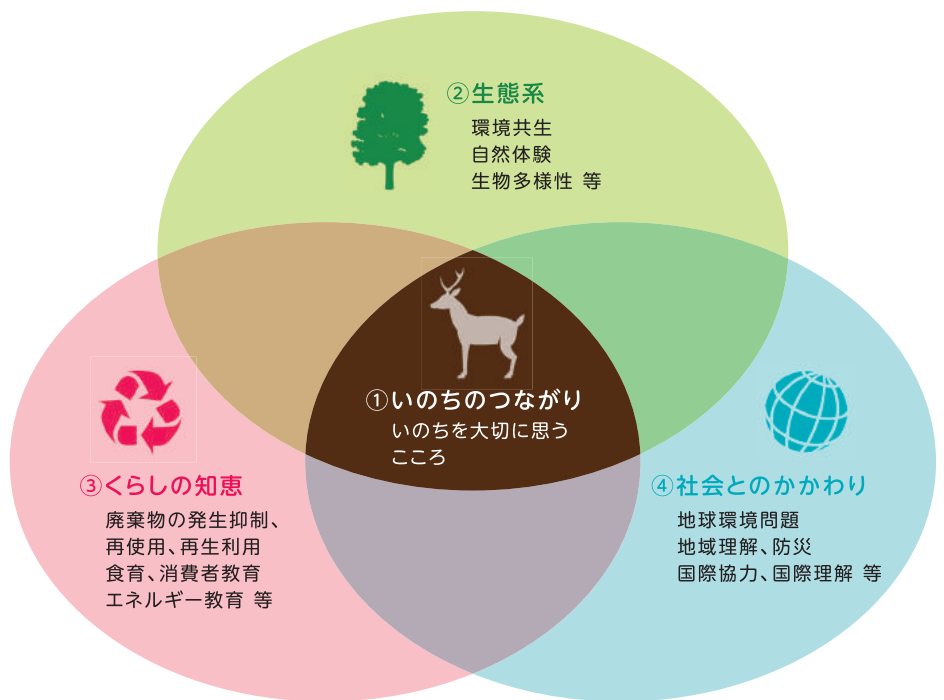
本県のこれまでの環境学習・教育の実施状況を踏まえ、県民一人ひとりが、自らの問題として環境問題に関心を持ち、具体的に行動することができるよう、乳幼児からシニア世代まで、自分の身近な環境から持続可能な社会づくりについて学び、体験する環境整備を図るとともに、ふるさとへの関心を高め、愛着を育んでいく環境学習・教育を次の基本的考え方に沿って推進します。

(1) 推進にあたっての基本的考え方

(3)つの原則

原則1 「自然」「くらし」「社会」
のつながりを総合的に学び、「こころ」を育む環境学習・教育の推進

- ① 「いのちのつながりを学ぶ」
—いのちを大切に思うこころの醸成—
- ② 「生態系を理解する」
—生物多様性の理解—
- ③ 「くらしの知恵を学ぶ」
—環境にやさしいライフスタイルの実践—
- ④ 「社会とのかかわりを知る」
—社会・地域と結びつけた環境学習・教育—
- ⑤ 「総合的な理解を促す」
—体験を通じた総合的学習—



総合的な環境学習・教育

原則2 自ら「体験」「発見」し、自ら「学び」「行動」する環境学習・教育の推進

- ① 「環境を体験し、感動する」
—体験・発見—
- ② 「環境を学び、知る」
—知識・理解—
- ③ 「環境を考える」
—思考・判断—
- ④ 「環境の保全と創造に向け行動する」
—参加行動—

原則3 本県の特性を踏まえた環境学習・教育の推進

- ①「多様性を生かす」
― 地域の多様な自然・風土の活用―
- ②「県民主役で取り組む」
― 県民の参画と協働―
- ③「防災の視点を取り入れる」
― 阪神淡路大震災や風水害等の
自然災害の教訓継承―
- ④「国際協力・交流を推進する」
― 国際的機関の活用―

(2)各主体における環境学習・教育の推進

社会を構成する多様な主体(学校・教育機関等、大学・研究機関、地域団体(民間団体)、中間支援組織、企業・事業者、行政(県、市町)が、学校、地域、社会、職場、サービス提供の現場等様々な場で、それぞれの役割に応じた活動を推進することが重要です。

(3)ライフステージに応じた

環境学習・教育の推進

ライフステージ(乳幼児・小学生・

中学生・高校生・大学生・社会人世代・シニア世代)に応じて、環境にやさしいライフスタイルを実践することが期待されます。

4 環境学習・教育の推進方策

(1)基本目標

「3 環境学習・教育のあり方」に沿って、次の4つの目標のもと、県民各自が主体的、自主的に学ぶことのできる環境学習・教育システムのしゅみの構築をめざしていきます。

- 目標1 だれもが、どこでも、いつでも学べるしくみづくり
― 参加者の拡大―
- 目標2 五感(触れる、見る、聞く、嗅ぐ、味わう)で学び場づくり
― 拠点の形成―
- 目標3 学びの資源づくり
― 学習基盤の形成―
- 目標4 学びから実践へ、実践から学びへの環づくり
― 学習と実践の一体化―

(2)具体的な推進方策

体験型の環境学習・教育の機会を県民に幅広く設けるとともに、必要基盤の整備と実施主体への支援を図り、環境学習・教育をより一層推進していきます。体験型環境学習・教育を進めるにあたっては、地域での様々な取組と連携して参加者の拡大を図るとともに、学習と実践の一体化を実現します。基盤の整備については、情報提供、人材育成・活用、プログラムの開発等すべての領域にわたって進めていきます。

①学校等における

体験型環境学習・教育の推進

- いのちのつながりを実感する環境学習・教育の推進
- 学校等における環境学習・教育の支援

②地域における

環境学習・教育の推進

- ふるさとへの愛着を育む環境学習・教育の推進
- 県民運動等との連携

③環境学習・教育を支える

基盤の構築

- 情報の収集・提供
- 環境学習・教育をリードする人材の育成・登録・派遣など

④実践活動を促す総合的展開

- 相談体制の推進
- 各主体への活動支援及び主体間の連携促進

【参考】企業の森づくり

企業・団体等が社会貢献活動の一環として行う森林保全活動をさらに推進するため、活動地の情報提供によるマッチングや活動計画の策定指導等により、「企業の森づくり」を支援しています。

平成26年度末で27の企業や団体と活動協定を締結し、森づくりを推進しています。



「企業の森」活動(ゆめさきの森公園)

「農業高校の甲子園」で兵庫県初の最優秀賞

(プロジェクト発表競技)

野生酵母の未知の可能性を
社会に役立てる試みに取り組む

兵庫県立農業高等学校は、明治30年の創立以来「食と環境のスペシャリスト」育成をめざして、農業、園芸、動物科学、食品科学、農業環境工学、造園、生物工学の7学科833名の生徒が学ぶ学校です。

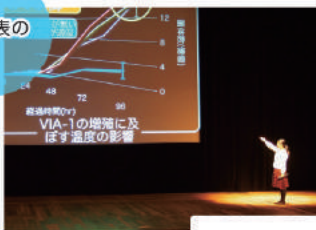
2015年10月に第66回日本学校農業クラブ*全国大会(群馬県開催)で、生物工学科「花酵母研究会」のメンバー7人が、プロジェクト発表・環境部門の最優秀賞(文部科学大臣賞)を受賞しました。全国大会は「農業高校の甲子園」と呼ばれ、全国9ブロック各都道府県の予選を通過した生徒が、日本一をめざすものです。

受賞した発表タイトルは「5ミクロンの可能性〜野生酵母の特性を利用した農業環境の改善〜」。酒やパンなどの発酵食品をつくる厳選された酵母菌とは別に、自然界には5ミクロン程度の野生酵母がたくさん存在しており、それらの未知の特性を研究することで社会に役立てようと、約5年前から農業クラブ活動のひとつとして花酵母研究会がつけられました。すでに1000種以上の野生酵母を発見したそうです。

自分で工夫すること
コミュニケーション力が大事

その中で、唯一利用価値が見いだせなかつ

プロジェクト発表の様子



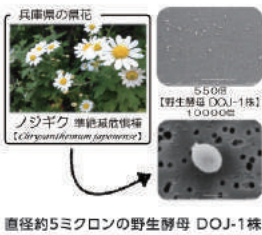
純米酒「県農花てがみ」

サルビアの花から採取した野生酵母でつくられた、甘めでさわやかなフルーティな飲み口のお酒が誕生。神戸のホテルでも採用されました。

花酵母研究会のみなさん



植物育種研究会の小学校での出前授業



酒蔵での発酵温度制御に苦心しました。開発メンバーも昨年三十歳になって、ようやく冷凍保存していたお酒を味わえたようです。



たのが、ノジギク*から採取した野生酵母DOJ-1株。しかしアルコール発酵能力がなく、油のような独特のにおいがすることから実験を重ねた結果、細胞内でデンプンを油脂(トリグリセリド)に変換していることがわかりました。そこでデンプンを多く含む鶏糞を用いてDOJ-1を培養してトリグリセドを抽出し、バイオディーゼル燃料の精製に成功しました。バイオ燃料製造用に穀物をつくるのではなく廃棄物である鶏糞を利用し、かつ兵庫県準絶滅危惧種のノジギクに依存する酵母からバイオ燃料をつくるという画期的なサイクルの提案が受賞理由となりました。

「一番学んでほしいことは、学校だけでなく関係機関などとの交渉や取材を通じたコミュニケーション力です。豊富な実験器具や最新設備があるわけではない中で、自分たちで工夫するかということも勉強です」と担当の今村先生。

花酵母研究会以外の研究会も活発です。たとえば、植物育種研究会はノジギクを用いた「花育」で、小学校へ出前授業などを実施。6次産業研究会は光合成細菌を使った農産物の品質や収量を改善する研究ですが、香住高校海洋科学科と連携するなど、学校内外で学びの場が広がっています。

*農業クラブ…全国で農業を学ぶ高校生が、「指導性」「社会性」科 学性の伸長を目標にそれぞれの専門分野でのプロジェクト活動を行うもの。これらの成果を発表する場として日本学校農業クラブ連盟全国大会がある。
*ノジギク…キク科キク属の多年生植物。牧野富太郎が発見・命名した兵庫県の県花。兵庫県では現在準絶滅危惧種。

「人と海を技術でつなぐ」を企業理念に

木質バイオマス発電の導入と普及啓発に取り組む

人の生命維持になくてはならない塩。赤穂周辺では弥生時代から塩の生産が行われてきたと言われます。日本海水赤穂工場は、「塩の国」の伝統と技術を受け継ぎつつ、燃料調達や製造工程で環境に配慮した取り組みを推進しています。



木質バイオマス発電設備



第25回環境に優しい事業者賞 「優秀賞」を受賞

(株)日本海水赤穂工場は、2015年4月に木質バイオマス発電*1と、天然ガス発電を組み合わせた「環境配慮型コージェネレーションシステム」の営業運転を開始しました。県内初の「再生可能エネルギーの固定買取価格制度」*2を活用した発電事業となります。

製塩工程では、海水を濃縮する大量の電力と、濃縮した海水の水分を蒸発させ、結晶化し商品化するための高温の蒸気が必要です。これまでの自社発電設備は、石化燃料(PC炭)を使用するものでしたが、新設備への更新で年間約17万t(赤穂市全体の4%に相当)のCO₂排出量を削減できるそうです。

同バイオマス発電設備の最大発電出力は16,530kW、天然ガス発電設備は7,700kW。電力事業部の川田政夫さんによると「木質バイオマス発電設備だけで、赤穂市の一般家庭約2万世帯の電力をまかなえる規模。発電のみの熱効率は約37%ですが、発電と蒸気を活用したコージェネレーションシステムにすると、熱効率は約76%と飛躍的に向上します」。発電能力の増強で販売も可能となり、本格的な電力事業参入も始まりました。

兵庫県や各森林組合、 供給会社との協力と 信頼関係の構築がポイント

木質バイオマス発電設備の燃料の木材チップは年間約20万t。そのうち約10万tが間伐材などの未利用木材で、半分は兵庫県内の森林から調達される計画です。その他材木の端材、樹皮、PKS(パームヤシの種)などの一般木材、リサイクル木材が燃料として使われます。林業が盛んで、間伐材が豊富にある地域の特性と、兵庫県はじめ兵庫県森林組合連合会および各森林組合、木材及びチップ供給会社などの協力・支援体制の下で燃料の調達に一定の目的がついた事が計画実現の大きな理由だそうです。

バイオマス発電を含む環境保全の取り組みの紹介、啓発にも積極的です。2015年11月、上郡町で開催された



工場見学も積極的に受け入れています。



間伐材などの供給元である森林にも足を運びます。



月に一度3S(整理・整頓・清掃)の日を設定し、工場や港湾の清掃を実施しています。



「ひょうご森のまつり」では、企業ブースの出展を行い、兵庫県林務課の方々など、木質バイオマス発電での取り組みを紹介しました。また、市内の小学校を招いて工場見学も開催。「塩の製造やバイオマス発電を地域の子どもたちに見てもらいます。14階建てのビルに相当する高さを持つバイオマス発電設備の大きさに、子供たちは驚くようです」と同事業部の高橋典典さん。「人と海を技術でつなぐ」同社ならではの、環境に配慮し、地域に開かれた工場作りが進められています。

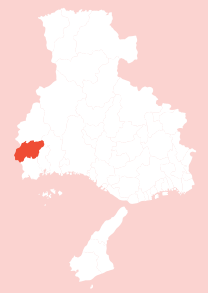
*1 木質バイオマス発電…間伐材や未利用材から作られた木材チップを燃焼させて、蒸気を発生させ、発生した蒸気でタービンを回して行う発電。赤穂工場の新設備は木質専焼としては国内トップクラスの発電能力。木質バイオマスの燃焼によつて排出されるCO₂の量は、樹木が成長する過程で大気中から取り込んだCO₂の量と同じなので、取支には影響しない。

*2 再生可能エネルギーの固定買取価格制度…再生可能エネルギーによる発電の普及を目的とした制度。電力会社が一定価格で買い取ることを国が約束することで、普及への課題のひとつであるコスト問題の解消などをめざすもの。

市町の取り組み

かみ ごおり ちょう 上郡町

県南西部に位置する上郡町は、南北朝時代の歴史の名残と、兵庫県立大学播磨理学キャンパスや播磨科学公園都市など先端科学が併存する町です。中央を環境省の名水百選に選ばれた千種川が流れ、町全体は国土交通省の「水の郷百選」にも指定されています。
人口／15,658人 世帯数／6,442世帯
面積／150.26km²（2016年5月1日現在）



▲(左上)小型家電回収BOXには2か月間で約240kgの投入がありました。(右上)ガラス被害についての研究の様子。
(左下)ごみを漁るのはハシブトガラス(左)。やや植物食の傾向が強いハシボソガラス(右)はごみを漁らないそうです。
(右下)「上郡森林体験の森」では、ウグイスやホトトギス等の野鳥やカブトムシ、クワガタ等の昆虫が観察できるほか、ツツジ山としての整備も進められています。

ガラスのごみ被害低減や 小型家電回収に取り組む

人とガラスの共生をめざす 地元中学校の研究をサポート

全国で問題となっているガラス被害の原因について、上郡町内にある兵庫県立大学附属中学校の6名が研究*を始めたのは2013年春。兵庫県立人と自然の博物館の布野隆之研究員の指導で2年間実施されました。上郡町でも町内のごみ収集車の担当者への協力要請や、各自治会に定点観察用のカメラ設置の了解をとるなどサポートしました。

「この地域にガラス被害が多いわけではありませんが、子どもたちの学習の支援と地域環境の改善に役立つことから協力しました」と住民課環境衛生係の井上係長。観察の結果、町内にある約500か所のごみ置き場のうち約70か所でごみを金網で覆うなどの対策がとられていないことがわかりました。金属製のかごは高価で、しかも狭い市街地では設置が困難です。そこで、折り畳めて省スペースで、安

価な樹脂製のネット付きごみBOXを使うことを提案としてまとめ、2015年3月に町職員を招いて発表。同年4月には第14回「出る杭大会」(主催・西播磨元氣プロジェクト)で大賞を受賞。賞金で購入された折畳式のごみBOXは上郡町に贈呈されました。

現在は兵庫県立大学附属高等学校に進学した生徒さんの一人は、「研究ではたくさんの方にお世話になりました。本来山に生息しているガラスが町にくる原因は人のごみの捨て方もかもしれません。『人とガラスの共生』が実現すればいいですね。寄贈を受けた折り畳み式のごみBOX4台は、研究で協力した自治会で実際に使用されており、普及に向けて期待されています。

小型家電ボックスを設置 レアメタルのリサイクルへ

上郡町は2015年度の環境省実証事業に採択され、有用金属をリ

サイクルする小型家電回収にも注力しています。2015年11月から役場庁舎・各地区公民館に回収ボックスを設置して回収を実施。同じ環境衛生係の平林さんは「BOXの投入口の大きさにも関係しますが、パソコンや携帯電話が最も多く、総重量で約3割、個数で約半分を占めました」とのこと。今後もBOX回収は継続するそうです。

また、上郡町では、「上郡森林体験の森」を整備。森林内のワークハウスで、森林ボランティアによる定期的な木工教室・キノコ栽培教室・鳥の巣箱づくり教室なども行っています。昨年はこの森を中心に「ひょうご森のまつり2015」も開催されました。

*総合的な学習「Da.S.T.P」のひとつで、同校では、外部講師を招いてグループで課題を設定して研究や学習に取り組んでいます。



2015年に開催された「ひょうご森のまつり2015」

ひょうご環境体験館の環境学習



ひょうご環境体験館は、地球温暖化をはじめとする環境問題について、子どもたちから大人たちまで幅広い年齢層の県民が「気づき」「学び」「知る」ことのできる環境学習のための体験型の環境学習施設です。

最先端の科学技術と豊かな自然が共存する播磨科学公園都市にユニークで周辺の山林に溶け込んだデザインの建物は、兵庫県産の間伐材を使った丸太のトラスで支えられた3つのドーム空間で構成されています。太陽光発電や、小型風力発電など、さまざまな省エネ、新エネ技術が導入され施設全体が、環境問題について学べる構造となっています。

ひょうご環境体験館の環境学習プログラムの一例



1 地球温暖化防止等の体験型プログラム

ガイダンス(導入)映像 シアター

地球温暖化の仕組みを知り、それが私たちの日々の生活に起因するものであることを学び、それを防ぐために行動、実践してもらうためのきっかけづくりとなるような映像内容です。映像を年代別に3本作っています。

ア 一般向け

「いま、地球のためにできること～小さな輪を大きな輪へ～」

イ 学齢期向け(小学校高学年)

「これからの地球のために、みんなで考えよう
～ストップ地球温暖化～」

ウ 幼年期向け(小学校低学年以下)アニメーション

「ゴリ君の涙～みんなが地球を救う～」



2 科学実験・エネルギー実験の体験型プログラム

A. 二酸化炭素について正しく知ろう! CO₂の性質

小学校高学年以上

二酸化炭素を石灰水、リトマス試験紙等で性質を調べてわかりやすく解説します。

B. 手回し発電機体験 小学校低学年から

手回し発電機を使って、エネルギーの発生方法をわかりやすく解説します。

C. 備長炭等の電池づくり 小学校高学年以上

備長炭と身近な物で簡単な電池を作り、仕組みについてわかりやすく解説します。



3 西播磨の自然環境を活かした体験型プログラム

A. 里山散策(動植物観察)

身の周りにいる動植物について解説をまじえ、自然散策路を散策します。

B. ネイチャーゲーム

幼児から大人まで楽しめる自然素材を使ったゲームです。

C. 草木染め

草木から染料を作り、輪ゴム等で柄を入れて布地を染めます。

D. 葉脈しおりづくり

里山の葉っぱを使った、葉脈しおりづくり。施設利用記念でおみやげ。

プログラム参加者の声

- 葉脈しおり作りは普段できない活動なので良かった。CO₂が温暖化の原因であること、地球が病気にかかっていると説明されたことはとても分かりやすかった。
- CO₂を減らすには水や電気の無駄遣いを減らせばよいことに気づかせてもらえていい勉強になりました。
- 子どもたちの感想から印象に残っていることがわかりました。生活の中でエコを気にするようになりました。
- 学校ではできない実験ができた。ネイチャーゲームも子どもたちが喜びよい勉強になった。

- 周辺散策では植物について詳しく教えてもらい、子どもたちも興味深そうに話を聞いていた。しおり作りでは誰でも作品ができるよう細かく準備していただいた。
- 子どもたちが興味を持てる内容であった。プログラムと環境との関わりについてわかりやすく説明して下さった。
- 展示物もとても興味を引く、子どもたちも楽しそうでした。3年生にとって科学実験が少し難しかったかもしれませんが、しかし学校ではできない体験がたくさんできたので良かった。



ひょうご 環境体験館

〒679-5148
佐用郡佐用町光都1丁目330-3(播磨科学公園都市内)
Tel.0791-58-2065 Fax.0791-58-2069
<http://www.eco-hyogo.jp/taikenkan/>

ひょうご環境体験館





環境学習事業のご紹介

当協会では、人と環境との関わりについて理解を深めるため、環境学習事業を実施しています。その一部をご紹介します。

「平成27年度海岸漂着物地域対策推進事業(環境学習)」の実施

環境問題への関心及び海岸漂着物地域対策への意識を高めていくため、兵庫県内の高校生等を対象に、兵庫県立豊岡総合高等学校インターアクトクラブ及び竹野スノーケルセンター指導のもと、海岸清掃活動及び外来種の駆除等の環境学習を実施しました。



参加者全員が指導者からの説明を熱心に聞いていました。



清掃活動では、汗だくになりながら漂着物を回収することにより、漂着物には生活に伴って発生したごみが含まれていることを認識し、一人一人がごみを出さないように気をつける必要があることの理解を深めました。

また、外来種「オオブタクサ」の駆除では、虫が飛び回る中、ドロドロになりながら取り組み、在来種を保護するためには、地道な活動を続ける必要があることを理解しました。



「これからもこういった機会があれば参加したい」、「少しでもきれいな海岸になってほしいと願いながら活動に取り組みました」、「何か小さなことを少しずつでもできたらいいなと思いました」、「軽い気持ちで捨てたごみが永遠にさまよい、どこかの海岸に漂着していることは本当に残念なことだと思います。落ちているごみは拾う、気軽にごみを捨てない、ということを改めて感じることができました」、「他校の人たちとも交流できたことはとても楽しく感じました」等、環境保全への意欲が感じられる意見が多く寄せられました。

瀬戸内海側と日本海側の環境保全活動への取り組みに熱心な高校生の交流も図れ、大変有意義な一日となりました。



実施日時 平成27年7月27日(月) 8時から20時

実施場所 豊岡市竹野町大浦小浦

参加人数 42名

(豊岡総合高等学校、近大豊岡短期大学、豊岡ロータリークラブ、留学生、滝川高等学校、明石西高等学校、神崎高等学校、神戸山手女子高等学校、神戸国際大学附属高等学校、日ノ本学園高等学校、神戸市立工業高等専門学校)

参加費無料
バスで
移動します!



平成28年度資源循環環境学習の募集

平成28年度資源循環環境学習を以下のとおり実施します。たくさんのご参加お待ちしております。

1 海岸漂着物地域対策推進事業(環境学習)

環境問題への関心及び海岸漂着物地域対策への取組意識を高めるため、専門家の指導のもと環境学習及び海岸清掃活動を実施します。

実施内容	竹野スノーケルセンター周辺で、海岸漂着物回収及び絶滅危惧種の解説				
日時	7月26日(火) 8時~20時	募集人数	40名(中学生、高校生)	集合場所	姫路駅周辺発着

2 ホントにゴミ? ゴミからお宝発見! リサイクルツアーに出かけよう

廃棄物の発生抑制や、リサイクルに取り組む先進的な地域の企業の見学ツアーを開催し、ゴミ問題や環境に配慮したライフスタイルについて考えてもらうきっかけとし、循環型社会の形成に向けて意識高揚を図るとともに、廃棄物処理やリサイクル技術の普及啓発、関係企業等の認知度向上を通じて環境ビジネスの振興を図ることを目的とします。

	行程①	行程②	行程③
見学内容	富士通周辺機(株)で、コンピュータ周辺装置のリサイクルの説明及び見学。ロイヤルオートパーツ(株)で、自動車解体リサイクルの説明及び見学。	大栄環境(株)三木リサイクルセンターで、処分場等の全景及び資源再生施設等の見学、事業所概要及びリサイクル製品等の説明。ペットボトルの分別体験、水質浄化実験及び科学工作。	パナソニック エコテクノロジーセンター(株)で、家電製品のリサイクルについての説明、展示物及びリサイクル工程の見学。解体体験。
日時	8月19日(金) 13時~16時30分	8月23日(火) 9時30分~15時30分	8月25日(木) 13時~16時20分
募集人数	30名(西脇市、三木市、小野市、加西市、加東市及びび多可町の小学校4、5、6年生とその保護者15組)		
集合場所	北播磨県民局発着		

3 資源循環環境学習ツアー

廃棄物の発生抑制や、リサイクル等の環境問題に積極的に取り組む企業・団体等の見学ツアーを実施し、ごみ問題や環境に配慮したライフスタイルについて考えてもらうきっかけとし、さまざまな環境問題への取組意識を高めていただきます。

	行程①	行程②
見学内容	エネルギーパーク洲本で、風力発電、バイオディーゼル燃料精製プラント、菜種搾油施設等の見学や地球温暖化の防止にもつながると考えられているケナフ紙すき体験。	新日鐵住金(株) 広畑製鐵所で、熱延工程、廃タイヤガス化リサイクル施設の見学。ヤマサ蒲鉾(株)で、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減への取組工場の見学及び蒲鉾づくり体験。
日時	8月2日(火) 12時~17時30分	7月28日(木) 9時~16時45分
募集人数	40名(小学校5、6年生と保護者、中学生、高校生)	
集合場所	神戸駅周辺発着	姫路駅周辺発着

事業内容によって募集対象者が異なります。詳細については(公財)ひょうご環境創造協会のHP(<http://www.eco-hyogo.jp/>)をご覧ください。

お問い合わせ/資源循環部 Tel.078-360-1308

「クリーンアップひょうごキャンペーン」がスタート!

今年もクリーンアップひょうごキャンペーンが始まりました。

“ごみゼロの日”である5月30日から7月31日までの2カ月間、県下全域にわたって環境美化運動を展開します。

平成27年度は、87事業所・団体の協賛・協力をいただき、キャンペーン期間中、県民約63万人が参加し、ごみ等を約5,793トン回収しました。

ごみのない美しいまちへ…クリーンアップひょうごキャンペーンにご協力ください。

問い合わせ先／資源循環部 Tel.078-360-1308 Fax.078-360-1338



「ひょうご出前環境教室」で楽しく学ぼう!



当協会では、「環境について勉強したい!」という県内の地域グループ等を対象に、環境学習プログラムの中から希望する講座の講師を派遣する「ひょうご出前環境教室」を実施しています。

このたび、平成28年度、29年度の登録講座を全面更新、改訂いたしました。講座型から体験型、地球温暖化防止からリサイクル、生物多様性等と幅広いプログラムを全118講座をご用意しています。ぜひご利用下さい。

問い合わせ先／ひょうごエコプラザ Tel.078-735-4100 Fax.078-735-7222

ご利用下さい「エコツーリズムバス」

当協会では、県民に環境学習施設での環境学習や貴重な自然環境などに触れる機会を提供することで、環境保全意識を高め、実践活動への参加の契機とするため、環境学習を実施する団体等にバス借り上げ経費の一部を助成する制度「エコツーリズムバス」を実施しています。(兵庫県の補助事業として当協会が実施)

これを機会に、自治会や地域グループの皆様が、実際に目でみたり手で触れたりして、環境について学び、省エネ、省資源、自然保護など、一人ひとりがライフスタイルを見直すきっかけづくりをしてみませんか。

助成要件、助成額、受付期間等の詳しい内容は、当協会ホームページ(<http://www.eco-hyogo.jp>)をご覧ください。

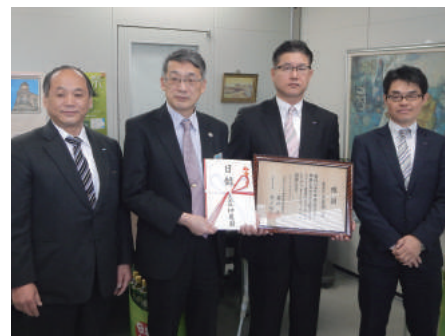
問い合わせ先／ひょうごエコプラザ Tel.078-735-4100 Fax.078-735-7222

株式会社

伊藤園様からご寄附をいただきました

平成28年4月、株式会社伊藤園様から「生物多様性ひょうご基金」に寄附をいただきました。この寄附は、兵庫県が選定した「ひょうご生物多様性保全プロジェクト」に助成し、生物多様性の保全・再生活動に役立てさせていただきます。

▶右側から(株)伊藤園神戸西支店橋本支店長、(株)伊藤園兵庫地区営業部網野部長、兵庫県秋山環境部長、当協会岩根理事長



地球環境保護のため、この印刷物はFSC®認証紙および植物油インキを使用しています。また、有害物質を使用しない水なし印刷方式で印刷しています。

